



学 校 便 り 琢 磨

第 7 号 R2. 6. 11 三豊市立詫間小学校

発信専用の携帯電話が導入されました！

本校は、児童数約 500 人の三豊市内では一番、規模の大きな学校ですが、これまで電話回線が 2 回線しかありませんでした。そこで、この度、三豊市教育委員会から、詫間小学校からの発信専用として携帯電話が 1 台導入されました。ご家庭への電話連絡にも使用いたしますので、以下の番号から電話があった場合は、詫間小学校からの電話連絡です。電話番号の登録を、よろしく願いいたします。

080-9834-0874

なお、この携帯電話は、本校では、小学校からの発信専用として使用いたします。携帯電話ですので、教職員が外部に持ち出す場合もあり、夜間、土日も含め、折り返して電話をいただいても、この電話での応答ができません。大変お手数をおかけしますが、この番号からの着信履歴があり、折り返して電話をいただく際は、以下の固定電話にご連絡いただけますようお願いいたします。

0875-83-2858 (三豊市立詫間小学校)

大変、ご面倒をおかけしますが、よろしく願いいたします。

本校の新型コロナウイルス感染防止対策等について その6

給食後の歯磨きについて

5 月末の分散登校時から今週末まで、給食後の一斉歯磨きについては、学校歯科医の指示もあり中止しておりました。しかし、この度、学校歯科医から再度指示があり、以下のように給食後の歯磨きを再開することとします。

- 歯磨きの再開は、来週の月曜日（6 月 15 日）からとします。
- 1、2 年生は、これまでと同じように、給食終了後、自分の席で歯磨きをします。歯磨き後は、教職員が子どもの机の消毒を行います。
- 3 年生以上は、給食が終わった順に、歯ブラシとコップを持って廊下に出て、間隔を十分にとり歯磨きをします。

歯ブラシ、コップの用意、確認をお願いします。なお、1 年生のコップは、学校で配ります。

体育集会も再開されました！



2、4、6 年生は、6 月 5 日（金）に、1、3、5 年生は、6 月 8 日（月）に、久しぶりに体育集会（色別対抗リレー）を行いました。

4 月に、オリエンテーションを行っていましたが、それ以来の体育集会でした。

力強く走る姿。一気に校庭が活気にあふれました。

習い事がクビになってしまった！—習字編—

前は、幼稚園に通っていた頃、ピアノのレッスンをクビになってしまったというお話をしました。

ピアノのレッスンに通えなく（通わなく）なったことは、幼い私の生活には大きな影響もなく、私は、のびのびと幼稚園生活を送っていました。

皆さんには信じられない話かもしれませんが、私が幼稚園に通っていた頃は、家の人が送り迎えするという事は無く、朝は、小学生と一緒に歩いて登園し、帰りは、近所の幼稚園の子どもたちだけで帰っていたのです。私は、家が遠かったので、途中まで一緒に帰っていた友達とは別れ、たった一人で歩いて帰ることになるのです。

当時は、幼稚園児が一人で帰っていても、そんなに危険なことはありませんでした。まず、自動車がほとんど走っていませんでしたし、地域の人たちが、いたる所でそっと見守ってくださっていたのです。

私は、一人になると田んぼの中に入って虫を捕まえたり、小川の中に入ってザリガニと遊んだり…。実は、私の家の近所に住んでいた祖母が、瓦屋の仕事の合間に、時々道まで出て、私の姿を確認してくれていたのですが、当時の私は、全くそんなこととは知らず、毎日が、一人での冒険の連続だったのです。

ある日、幼稚園に行くと、園長先生と担任の先生から「佳樹さん！あなた、昨日の帰り道、道の真ん中で側転をしていたそうね。危ないから絶対にしてはいけませんよ！」と、厳しく叱られ、それから1週間連続で、「サルさんが、道で逆立ちをしてけがをした」という内容の紙芝居を聞かされたのです。

なぜ、そんなことが幼稚園の先生に知られてしまったのかというと、それは、帰り道にある八百屋さんのお婆さんが、私の帰る様子を見守ってくださっていたからなのです。私は、幼稚園で友達がしていた側転を自分もしたくて、帰りながら練習していたのです。右手を大きくあげた私を見て、その八百屋さんのお婆さんは、「幼稚園の子どもなのに、しっかり手をあげて道を渡っているわ！」と、とても感心したらしいのです。しかし、その直後、私はあげた右手を勢いよく下ろしながら逆立ちの姿勢になり、くると側転をしたのです。道の真ん中で。驚いた八百屋さんのお婆さんは、すぐに幼稚園に有線電話（受話器を取ると交換手さんが出て、相手の番号を告げるとつないでくれる電話みたいなもの）をして、このことを報告したのです。詫間小のよい子の皆さんは、ぜったいにまねをしないようにしてくださいね。

そんな落ち着いたくない私が、小学校に入学して間もなく、「お姉ちゃんが習字の塾にも通うので、お前もついでに行きなさい。」と、両親から言われました。字を習うと、少しは落ち着いて勉強するのではないかと、両親も考えたのでしょう。そして、私は、4歳年上の姉と一緒に、週に1回、習字の塾に通うことになったのです。今度は、両親も考えました。長続きさせようと、「習字の塾が終わったらアイスクリームを買ってあげるから、がんばりなさい。」とききました。私は、ほぼアイスクリーム目当てで、習字の塾に通い始めたのです。

しかし、そんな気持ちで習字の塾に通っているわけですから、だんだんと、字を書くのが嫌になってきます。そうすると、同じ気持ちの友達と遊び始めてしまうのです。ある日、私は習字の墨を手に塗りつけて「手形」を作ったり、友達の体に墨を塗って、その上からポンポンと押さえて「レントゲンごっこ」をしたりして。とうとう先生に、「字は心だ！ふざける子は、もう来なくていい！」と、こっぴどく叱られてしまい、2回目のクビとなってしまったわけです。もちろん、習字の先生も本気でクビにしたわけではなく、私にもっと心を入れ替えてがんばってほしいと厳しくご指導いただいたことは、当時の私にも何となくは分かっていました。でも、何事も長続きしない私は、このことをきっかけに、習字の塾には行かなくなってしまうのです。当然、週1回のアイスクリームも無くなってしまいました…。

ピアノに続いて習字までクビになったということで、両親からも、こっぴどく叱られました。その話を聞きつけた近所に住んでいた祖母まで家にやってきて「ばあちゃんは、絶対に長生きしないかん。お姉ちゃんは、本当にいい子に育ったが、佳樹はしっかりしてないから、将来が心配でたまらん。できるだけ長生きして、何とか助けてやらないといかん。」と、ふーっと深いため息をついていた姿だけが、50年近く経った今でも忘れることができません。叱られたことより、自分はダメな人間なのだと思います。知らされたことの方が、ずっとずっと悲しかったのだと思います。

しかし、これにもこりずに、それから3年後、何と私は3回目のクビになってしまうのです。それは、「そろばん塾」です。このことは、次回の「独り言」に書かせていただきます。

